尾瀬・与作岳から奥利根・赤倉岳　　小沼 充範

■山行年月日:2019 年 5 月 3 日～5 日
■メンバー: 小沼 充範

今年は降雪量が例年に比べ少ないものの、気温の低い日が続いたため雪解けが遅れ残雪が多くあるようだ。4 月連休の景鶴山スキー山行は日直のため参加することができず、尾瀬の与作岳をベースにマイナー名山の一つである奥利根・赤倉岳へスキーを利用して登ることにした。前夜、御池の駐車場にて車中泊する。

5 月 3 日。6 時 30 分出発。晴天が広がり平ヶ岳、越後荒沢岳が見える。上田代までは順調に進んだが、その先は怪しいトレースをたどることになる。針葉樹の尾根から小さな沢へ下りる。沢の上流には燧ケ岳の双耳峰が手に取るように見える。ルートが間違っていることに気付き、登山道のルートよりも標高の高い場所にいるようだ。この沢に沿って滑り下りて行く。見覚えのある吊り橋が目の前に現れ、9 時 30 分ようやく燧裏林道へとび出すことができた。標高 1700m付近を迷いながら歩いていたようである。

尾瀬ヶ原方面から来るパーティーとすれ違い、美しいブナ林の中を進む。大樋沢は深い渓となり、スキーを脱いで対岸に渡る。この先、緩斜面に小さな沢が入るものの雪渓をうまく見つけて通過する。迷いそうなブナの平坦地をマーキングと古いトレースを頼りに進み、11 時 15 分、元湯山荘にたどり着く。雪囲いされた山小屋は誰もおらず、五月連休なのに静かな場所である。小さな流れに架かる木道はスキーを脱いで渡るが、プラブーツはとても滑りやすく注意を要する。燧ケ岳を横に見て広大な雪原の中を進む。只見川に架かる東電尾瀬橋を渡ると東電小屋である、12 時 15 分。二人組のパーティーとすれちがうだけであり、五月連休とはいえとても静かである。

登山道を離れ、ヨシッ堀田代の雪田を進む。南には至仏山を見渡すことができる。ケイズル沢をつめ沢の左岸尾根を登って景鶴山の右肩に上がろうと思ったが、急な尾根であり重い荷物を背負って登るのは大変そうなので、与作岳から延びる尾根へ登ることにした。美しいブナ林の広がる下ヨサク沢の緩斜面を進む。下ヨサク沢が右に曲がる地形図の「下」の付近からブナの広がる尾根に取り付く。尾根を登って行くと、下ヨサク沢上部の岩符号の場所に滝があるのを確認することができる。14 時、県境尾根、標高 1680m付近にたどり着く。尾根上はたくさんのツボ足のトレースがついている。緩やかな尾根も標高 1750m付近で細くなるものの再び傾斜が緩くなる。14 時 30 分、標高 1800mのコメツガの林にテントを張る。至仏山、尾瀬ヶ原を見渡すことができる場所だ。一日の行動を終えた後のサントリープレミアムモルツはとてもおいしい。

5 月 4 日、6 時 50 分出発。与作岳のテント

奥利根・赤倉山

場をベースにして必要な物だけを持って行く。針葉樹の緩やかな尾根をスキーでターンを繰り返し登ると与作岳の山頂である、7時15分着。山頂には登山者が数名おり、平ヶ岳、越後荒沢岳、毛猛連山、浅草岳、丸山岳が見え、尾瀬ヶ原が朝日に照らされオレンジ色に染まっている。与作岳から見る景鶴山は鋭く尖っている。景鶴山を目指す登山者が多く大変人気があるようだ。景鶴山へは登らず、景鶴山の北側をトラバースし北へ派生する緩やかな尾根に上がる、8時着。

県境稜線はトレースが多いので人気をさけ、針葉樹の記号のある場所から西側の緩斜面を滑り下りて行く。湿地記号のある場所は広い雪田であり平ヶ岳を望むことができる。とても雰囲気が良く静かな場所である。青空の下、クロウ沢右俣上部の二俣にたどり着く。雪に埋もれた右俣をつめる。左岸からの枝沢を見送り、沢を忠実につめて行くと東白沢池である、8時30分着。今は雪に埋もれ大きな雪田となっており、熊の足跡を確認することができた。

登りを避け 1892m ピークの北側をトラバースして行く。大白沢山の北側は岩の露出する絶壁となっている。遠くに飯豊連峰、眼下に大白沢池を見ながら雪崩によるブロックの点在する斜面を進む。ダケカンバと青空のコントラストが綺麗である。9時10分、大白沢山西側の鞍部にたどり着く。周辺から登山者の声が聞え、この辺りの稜線の人気の高さを知ることができる。1911mピークへは登らず、南側の斜面を滑り 1852mの稜線に上がる。東側の緩やかな斜面を登って10時、ススヶ峰南側の肩にたどり着く。ススヶ峰の山頂まで往復する。山頂から平ヶ岳、剣ヶ倉岳、越後三山、巻機山が見え、奥利根の渓を見下ろすことができる。ここから見る至仏山は顕著な三角形となっている。これから登る赤倉岳は奥利根側へ半島のように突き出ている。

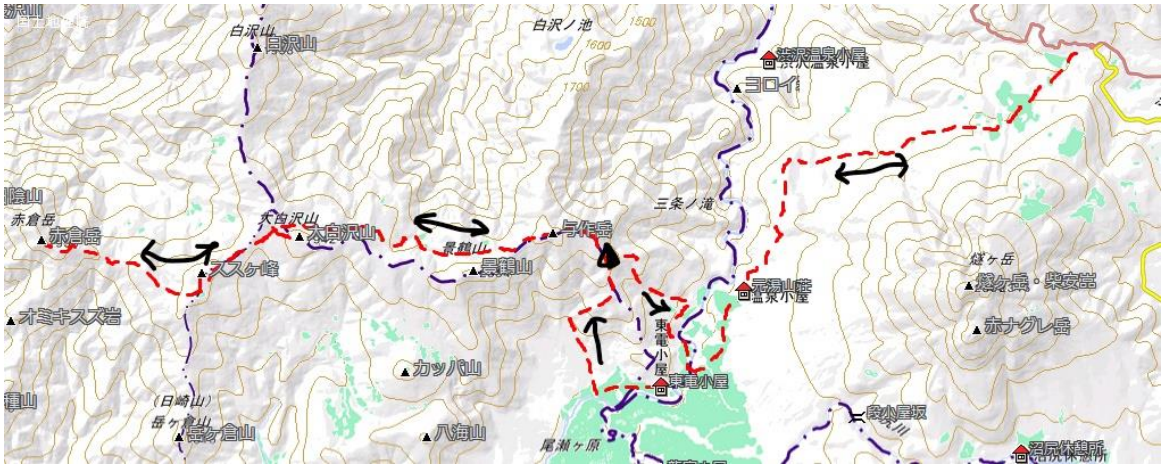
奥利根へ延びる針葉樹の緩やかな尾根を滑り下りて行く。尾根には赤倉岳をめざしたと思われるワカンの古いトレースを見かける。10時30分、鞍部 1761mにたどり着く。赤倉岳東側の肩まで雪がついており、スキーで登

ることができた。東肩から山頂にかけては痩せており雪稜となっている。スキーをデポし、ツボ足で登る。刃物の刃先の上を歩いているようであり、雪がざけており安心して通過することができる。山頂 11 時 30 分着。誰も訪れることのない静かな山頂であり、山頂にプレートはなく松の木にマーキングが付いているだけである。山頂から谷川岳、巻機山が見え、奥利根湖を見下ろすことができる。マイナー名山の頂上でのんびりくつろぎ、12 時 10 分下山開始。下山は往路を戻る。東肩から鞍部にかけては広い雪面になっており快適な滑りを楽しむことができる。

13 時 40 分、ススヶ峰の南肩に戻る。ススヶ峰の東斜面を滑り降り、大白沢山へ登り返す。スキーを脱いで大白沢山の山頂まで往復する。山頂 14 時 30 分着。トレースが多く数多くの登山者が登っているようだ。山頂から今登ってきたばかりの赤倉岳がススヶ峰の右側に見ることができる。1892mピークの南側をトラバースし、トレースのついた県境稜線をたどる。景鶴頂上へは登らず北側をトラバースし 16 時、北へ派生する尾根上に上がる。17 時 15 分、テント場着。与作岳から針葉樹の快適な滑りを楽しみすぎてしまいテント場を見逃し、テント場を探すこととなった。今日は長丁場であり、最初の缶ビールの喉ごしがとてもおいしく感じられた。

5 月 5 日。7 時 50 分出発。人気を避け、痩せ尾根の手前から釜尻与作沢上部を滑り下りる。燧ケ岳を眺めながらのブナ林の滑りとなる。沢の中を滑って行くと雪渓から滝の落ち口が現れ、スキーを背負って左岸から巻いて下る。振り返ると 15mほどの滝であり右岸から 15m滝を掛け合流している。沢は再び雪渓となりスキーで滑っていくことができる。緩斜面になると美しいブナ林が広がっている。只見川の左岸が急な崖のため尾根を 50mほど登り、滑り下りることとなる。東電尾瀬橋、9 時 15 分着。景鶴山を目指すワカンのパーティーとすれちがう。雪解けの只見川の上流に見える至仏山は絵になる風景である。10 時、温泉小屋を通過し、この先は天気が良くても迷いやすい平坦地のためマーキング、トレースを見失わぬよう注意して進む。

大橇沢を渡った後は、登山道ルートを外れて 1508mの尾根を越えて緩斜面を横切り、吊り橋手前で登山道ルートと合流する。登山道ルートから離れた緩斜面には美しいブナ林が広がっており、誰も訪れることのない静かな空間であり雰囲気の良い場所である。吊り橋から先も忠実にマーキングとトレースをたどり、今度は迷うことなく御池にたどり着くことができた、14 時 50 分着。

今回、マイナー名山である赤倉岳に登れ、ちょっとした雪稜を楽しみ、奥利根の渓を見下ろすことができ、とても新鮮味のある山行であった。燧裏林道から外れた場所には見事なブナ林が広がっており新しい発見であった。

赤倉山頂から見る奥利根湖